

2016年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答概要

■ 2016年3月期第2四半期 業績について

Q 1. 工作機械事業において、中華圏の業績が今期特に好調に推移しましたが、要因についてもう少し具体的にご説明頂けますか？

A 1. 中華圏においては、例年春節明けに設備投資をする企業が多く、今期も同様の動きがみられました。また、人件費の高騰もあり、現地企業が自動化や高精度・高精密な設備を導入する動きも見られ、高精度・高精密な放電加工機の需要が好調に推移したことも要因としてあげられると思います。

Q 2. 産業機械事業において、射出成形機の価格競争が厳しいとのことですが、市場環境についてもう少し詳しく教えて頂けますか？

A 2. 海外市場では、低価格の汎用機の需要が見られましたが、価格競争の激化により、売上は計画に対し伸び悩みました。また、当社が得意としている高精度、高精密な射出成形機の需要はあまり見られなかったことも要因としてあげられると思います。国内市場については、自動車関連からの需要が堅調に推移しています。当社も自動車関連をターゲットとした新製品※を投入し、積極的に需要を取り込んでいく方針です。

※新製品の情報については決算説明会資料P14をご参照下さい。

2016年3月期 通期業績予想について

Q 3. 足元の受注状況について教えてください。

A 3. 9月まで放電加工機の受注台数は減少傾向にありましたが、10月に入り下げ止まりつつあるという認識を持っています。

Q 4. 通期の業績予想を据え置いています、今後は受注が上向いてくると見ているからでしょうか？

A 4. 中国市場においては、成長率鈍化の影響もあり、足元では受注台数が減少傾向にあります。また、春節に向けて設備投資需要が低迷する傾向にあり、当期においても同様の動きが予想されます。一方、先進国市場（国内、北米、欧州）においては、自動車関連、航空機関連向けの受注が堅調に推移しており、中国の受注減少分を一定量カバーできるのではないかと見えています。

Q 5. 第3四半期、第4四半期別の業績の見通しについて教えてください。

A 5. 第3四半期については、市場環境が好調だった時期の受注残が一定数ございますので、その分が業績に寄与してくると思います。第4四半期については、中国経済をはじめ新興国市場の景気低迷や、米国の利上げ観測もあり先行きに不透明感がございます。今後、これらの不確定要素がどれだけ払拭されるかによるところがでございます。

2016年3月期業績予想について

Q 6. 研究開発費が増加することですが、こういった分野に投資していく方針ですか？

A 6. すべての分野に投資していく方針ですが、放電加工機、金属3Dプリンタをはじめ、射出成形機事業にも積極的に研究開発費を投入していく予定です。年間では30億円程度を見込んでおりますが、状況に応じて研究開発費を増加することも検討しております。

中国での生産状況について

Q 7. 中華圏では人件費の高騰などもあり、他社では製造原価が上がっていると聞いていますが御社の状況はいかがでしょうか？

A 7. 当社は厦門、蘇州に工場があり、人件費の高騰などにより製造原価は高くなってきています。中国向けの販売については、引き続き厦門、蘇州工場にて生産していく予定ですが、日本・3カ国間貿易を要する海外販売については、タイ工場や国内生産にて対応していく方針です。

金属3Dプリンタ事業について

Q 8. 金属3Dプリンタの上期の業績および通期の見通しについて教えてください。

A 8. 機種別の販売台数については営業戦略上お答えすることが出来ませんが、上期においては、金属3Dプリンタ事業が大きく業績に貢献しているわけではございません。ただし、引き合いは非常に多く頂いており、下期においては一定の成果が出てくるものと考えています。